

身近な自然の情報紙

かんきょう便り Vol.6



最近の環境調査課：暖くなると魚や虫たちがいっせいに動き出します。同時に私達の現場シーズンも始まります。

Spring 2003



冬の梅から春の桜へ



冬から春にかけて咲くウメとサクラは、人々に季節感を与えてくれる、日本人に最も馴染みの深い花の一つです。どちらもバラ科サクラ属に分類されます。

ウメは2月上旬頃から咲き始め、花は芳香があることから「香り」を楽しむものとされています。

サクラは春本番の訪れと共に咲き始めます。一般的な品種であるソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンの交配種で、明治初期に東京の染井村の植木屋が売り出したと言われています。それまではサクラと言えばヤマザクラ（左写真）を指していたようです。（角 成生）

花粉と花のミツ集めは仕事の基本！！

はたらきバチの春

- ミツバチ -

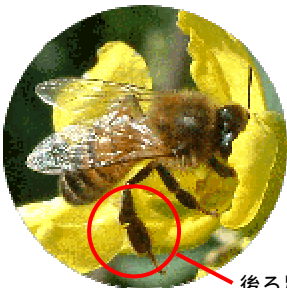
写真・文 宅間 友則



こんな天気の良い日は、ボクたちは大忙しなんだ。他にも卵や幼虫、女王バチの世話もしてるよ。



1 .花粉や花の蜜を集める

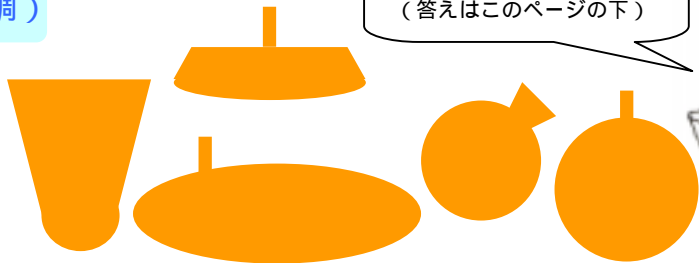


後ろ足に花粉を集めるんだ



2 . 巣づくり,巣の管理 (修理や空調)

はたらきバチは、体から出るろうを使って巣を作ります。巣の中が寒い時は筋肉をけいれんさせて温度を上げ、暑い時は羽で風を送ったり、直接水で冷やしたりもします。



ボクの家はどれかな？
(答えはこのページの下)



3 . 巣や仲間を外敵から守る

誰かに巣を傷つけられたり、仲間が襲われたりすると、みんなで攻撃したり、体をはって巣を守ったりします。



ミツバチの天敵、スズメバチ

希少野生生物語り⑤

「わしは小型ではないぞ！」
コガタノゲンゴロウ(ゲンゴロウ科)

名は「コガタ」だが、一族の中で最大のゲンゴロウ殿より少し小さいだけなのだ。昔はタガメと並ぶくらいの人気者だったんじゃが、最近仲間が減ってのう。おちおち山奥のため池から遊びに来ることもできん。だいぶ暖かくなってきたし、たまには子供らの顔も見たいのだが。

本州以南の池沼に生息し、幼虫・成虫ともに肉食性。体長約 30 mm。絶滅危惧類に指定。池沼の埋め立てや水銀灯の明かりも減少の一因と言われている。

栗野町にて撮影 (宅間 友則)



ミツバチの家 答え：

スギ(スギ科)

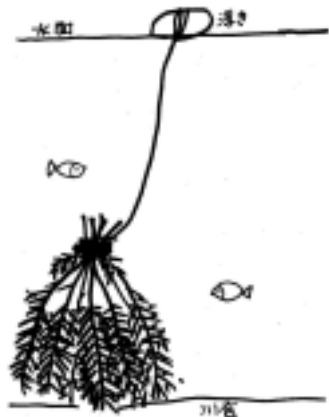
常緑高木 高さ 20~50m 花期 3~4月

日本人に最も馴染みが深く、戦後植林したものが年頃になり一斉に開花するため花粉症の元凶ともいわれる。針葉樹で幹がまっすぐ伸びるところから(まっすぐ= まっ杉)スギと呼ばれる。

川内川を知り尽した古老によれば、その昔、スギの枝葉を使った「せしば」漁法があったという。

「せしば」漁は、10月~5月頃の洪水がない時期に行われる。スギの枝葉を束ねておもりと浮きを付けた仕掛け「せしば」を川底に沈め、葉と束ね口のすき間に入り込んだ魚を丸ごと引き上げる素朴な漁法である。

しかし、時代と共にその姿はあまり見られなくなったようだ。



「せしば」漁の図



スギ林と球果

『「せしば」をよどみに浸けて1日~1週間して引き上げると、うなっ(うなぎ)、だんまえっ(テナガエビ)、がね(モクズガニ)、フナ、ごもっ(ハゼ類)、いよ(魚)がないでん捕れた。引き上げは舟でそろいと近づき「せしば」の下に網を敷いてからゆっくいと引き上げる。満月の大潮の晩は何でか魚は捕れんで長潮小潮の暗闇の晩に行ったもんじゃ。「せしば」にごん(泥よごれ)がひっ付けば魚が捕れんで、たまにゆっさぐいけ(振り落とし)行った。』と淡々と語る古老。

「せしば」が新しいうちは木の匂いがして魚もあまり捕れないが古くなってくると面白いように捕れた。スギの葉の「せしば」は2~3ヶ月は使えたという。

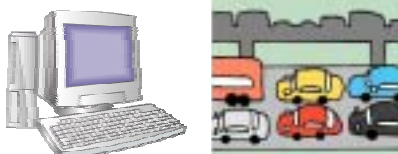
この漁法は県下各地に伝わり呼び方も様々である。沿岸海域ではイカ釣り、タコ釣りにも利用された。

今吉 努

マイナスイオンが体にいいのなんでだろう？暮らしの心得伝承記録 参

簡単に言えば、体が錆び付くのを防いでくれるためです。逆にプラスイオンは錆び付くのに拍車をかけます。例えば、釘など時間が経過すると錆が浮き出て折れやすくなりますよね。人間の体で言えば、細胞の酸化でいわゆる老化です。マイナスイオンには細胞を酸化しにくくする抗酸化作用があるとされています。

⊕ 電磁波、車の排ガス、工場の排煙等より発生



⊖ 水しぶきや水滴が多い場所(滝、渓谷など)



【マイナスイオン発生地点お勧めスポット】

⊖ : マイナスイオン (空気中の微粒子がマイナスの電気を帯びている)



曾木の滝



クルソン峡

森林浴効果があり、『空気のビタミン』とも言われるマイナスイオン。水辺や樹木が覆い茂っている山中に多数発生しています。たまの休みぐらいは自然息吹を体に受けて、心身をリフレッシュさせてみてはいかがでしょうか。

中村 尚



下流左岸より見た神子轟の瀬及び神子堰（中央の階段状の構造物は魚道）

こう し ところ 神子轟の瀬

川内川には「轟」と名の付く場所がいくつかあります。「神子轟の瀬」もその一つで、一帯は川内川流域県立自然公園に指定されています。

そもそも「ところき」とは、音の響きわたるさまを表す言葉で、「車」がたくさん通る騒がしい様子と重ねて「ところき」と言う漢字に「轟」という字が用いられています。

ですが、神子轟の瀬では、通常「轟」という字から想像する音のところできを聞くことはできません。大正時代、この瀬を利用した発電所ができるのに伴い、堰（神子堰）が設置された為、「轟の瀬」は姿を変えることになったからです。

現在は神子堰により約10mの落差がありますが、昔はこのような急な落差はありませんでした。しかし、上手な船乗りでも事故が絶えなかったと言われているくらい川内川でも有数の急流地域の一つでした。そこでこれを治める為、天保十四（一八四四）年に瀬の中央に水神司が祭られ、これ以降は事故が少なくなったと言われています。この水神司は、現在でも有形民俗文化財として轟の瀬の左岸側に残されています。

また、神子堰設置後の舟の通路（地元の人はいかだ下しと呼んでいる）も、堰右岸側に残されています。

昔とは姿を変えています、すばらしい自然が数多く残されている貴重な場所です。これ以上人の手が入らず、このままの姿でいて欲しいものです。

（橋口 政信）



いかだ下し（くだし）



左岸にある淵



下流の様子

なぜ？ どうして？

「へび」には足があるの？

（川内市 徳田唯人くん）

ありません。ただし、へびもむかしは「足」があったらしいのです。ニシキへびのなかまには、今でも2本のツメをもつへびがいて、体の中にはちゃんとホネがのこっています。これを痕跡器官（こんせききかん）といいます。「足のなごり」と言ったところでしょうか。（宅間 友則）



ふつつのへびにはありません

とある春の風景



♪ごんべえが耕しや〜コサギがほじくる〜♪

身近な河川・環境・生物などについて年4回、季刊として発行していきたいと思っております。ご意見、ご感想、また環境や生物に関する質問等、お待ちしております。次回Vol.7は7月上旬発行予定です。（編集室一同）